

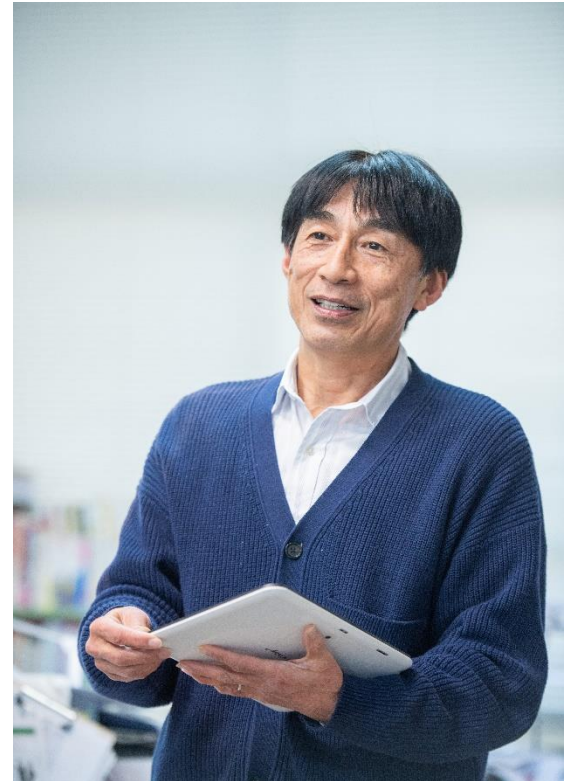
Profile

栄養専攻教授。同志社大学工学部卒。群馬県立高等学校教諭（松井田、渋川、高崎）。群馬県教育委員会事務局指導主事（理科）。群馬県立高崎女子高等学校教頭。高崎経済大学事務局課長、高崎市教育委員会事務局課長。高崎市立高崎経済大学附属高等学校長、群馬県立高等学校校長（吉井、桐生）を経て、2018年4月より現職。

専門は教科教育学（総合的学習、特別活動、道徳、理科）教育学（教育の方法、学校教育）。

主な著書「高校における学びと技法 探究で資質・能力を育てる」（一藝社、2019年、単著）「高校生に確かな学力をつける」（学事出版、2018年、単著）「高大連携と能力形成」（日本経済評論社、2013年、共著）「NOLTYスコラ 探究プログラム」（NOLTYプランナーズ、2019年、監修）

文部科学省「サイエンスインカレ」「優秀な理系学生の養成に関する事業」「理数学生応援プロジェクト」企画評価委員など歴任。



学生へメッセージ

私の専門分野は探究です。課題を発見したり、その課題を解決したりするために必要な知識やスキルは何か、それをどのようにしたら身に付けることができるかなどについて研究し、それを授業にも活かしています。

2020年新型コロナウイルスの感染拡大により、それまでは当たり前だと思っていた日常を大きく転換せざるを得ない事態になりました。私たちは日常において、答えが複数あるような課題に直面したり、正しい答えが存在するのか分からない課題を与えられたり、あるいは、自ら課題そのものを見つけ出し、それを解決したりしなければならない場面に遭遇する機会が増えるようになりました。

みなさんは高等学校までの学校教育においては、答えがあらかじめ用意されている問題を、いかに早く、正確に解いていくかということに重点が置かれた教育に終始し、そこで一喜一憂してきたかと思います。

今後は、高等学校までに身に付けてきた知識や技能を基盤にしながら、近未来的には、社会の在り方そのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わるといわれる社会を生き抜くために必要な資質や能力を身に付けなくてはならないと思います。

短大在学中に、専門的な知識やスキルを身に付けることはもちろんですが、自ら問いを見出し、課題を設定し、必要な情報を取捨選択・集積・分析し、熟慮の上に責任を持った判断をする過程を経験することで、どんな社会や職場でも生き抜ける力を付けてほしいと願っています。みなさんと授業の中で考え、体験し、一緒に探究していきたいと思っています。